

学校の概要（平成15年度4月現在）

学校名	坂出市立坂出中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	2	1 5	3 7
生徒数	1 5 4	1 4 1	1 8 3	6	4 8 4	

研究の概要

1 研究主題

<p>未来を拓く確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～ 評価を生かした指導の工夫，改善と基礎・基本の定着 ～</p>

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

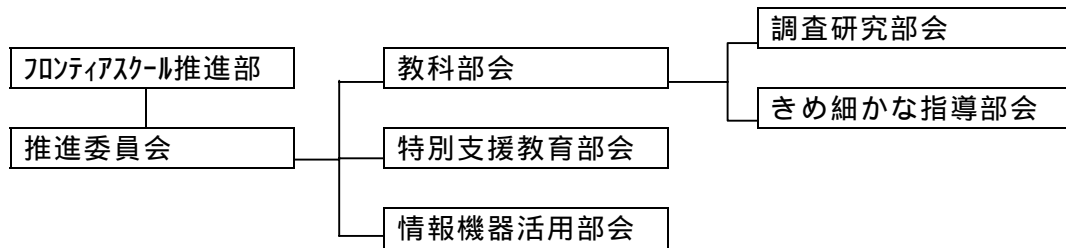
<p>少人数指導 1・2年生数学 数学は生徒の学習の状況に差が出やすい教科であり、学習内容がどの程度身に付いているかの把握と、細かな対応が特に重要で、昨年度から実施している習熟度別少人数指導の研究を一層深めるため。 T Tと少人数の組み合わせ指導 3年生数学 1・2・3年生英語 1・2・3年生理科 生徒の学習の状況の差が大きい数学と英語，実験や観察等多様な活動を行う理科において，2人の教師できめ細やかな指導を進めるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成十五年 度（一 年次）	<p>テーマ 未来を拓く確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～ 評価を生かした指導の工夫，改善と基礎・基本の定着～ 研究の見通し ・ 少人数指導やT T指導等，各教科の評価を生かした指導の工夫・改善により，生徒の学習に対する意欲を高め、知識・理解、考え方などその教科の基礎・基本を身につけることができる。 ・ 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の改善指導を行うことにより、学習に対する構えや意欲が高まり、確かな学力が身に付くことが期待できる。 研究の内容・方法 「確かな学力」について 確かな学力のとらえ方について共通理解を図り，各教科ごとに確かな学力を身に付けさせるための方策を考え実践を進める。 評価規準表の作成と評価を生かした指導の工夫・改善 ・ 全教科において、個に応じた指導や評価の生徒への返し方を考えた評価規準表を作成し，指導の工夫・改善を進める。 ・ 数理英の3教科は，少人数指導やT T指導による個に応じた指導のあり方を研究する。 学習の基盤づくり 基本的な生活習慣と学習習慣の定着が確かな学力形成の基盤であると考え，生活・学習習慣に関するアンケート調査を定期的に行い，生徒の実態の変容を見ながら指導を進める。また，家庭での生活や学習のあり方に関する保護者への啓発と連携について研究する。</p>
---------------------	---

平成十六年度 (二年次)	<p>テーマ</p> <p>未来を拓く確かな学力を身に付けた生徒の育成</p> <p>研究の見通し</p> <p>評価を生かした指導の工夫・改善や、重点指導項目（生活・学習・家庭学習に関する共通指導事項）の定着により、生徒の生活や学習習慣に対する意識も高まり、学習への構えが高まっていく。</p> <p>ＴＴ指導や習熟度別少人数指導など、いろいろな指導形態の特徴や教科の特質を踏まえ、指導形態の組み合わせや実施する単元を工夫することにより、基礎基本の定着が一層図られる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>指導形態の工夫</p> <p>ア 一単元の中でも、一斉ＴＴ指導や習熟度別少人数指導などを柔軟に組み合わせるなど、教科や学習内容に即した効果的な学習パターンを実践する。</p> <p>一年次の研究の更なる深化・充実</p> <p>ア 評価を生かした指導の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教科において、「学び方」の指導を重点的に行うとともに、個に応じた指導や評価を生かした指導の工夫・改善を積み重ねていく。 <p>イ 実態調査を生かした指導と家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケートの項目の見直しと家庭との連携方法の工夫・改善を図る。 ・ 定期的に生活アンケート調査を行い、生徒の意識の向上と取り組みの改善を図る。 <p>情報機器の活用と教具・教材の開発</p> <p>学び方の振り返りの場の設定と学習習慣に関する指導の工夫・改善</p>
-----------------	--

(3) 研究指導体制

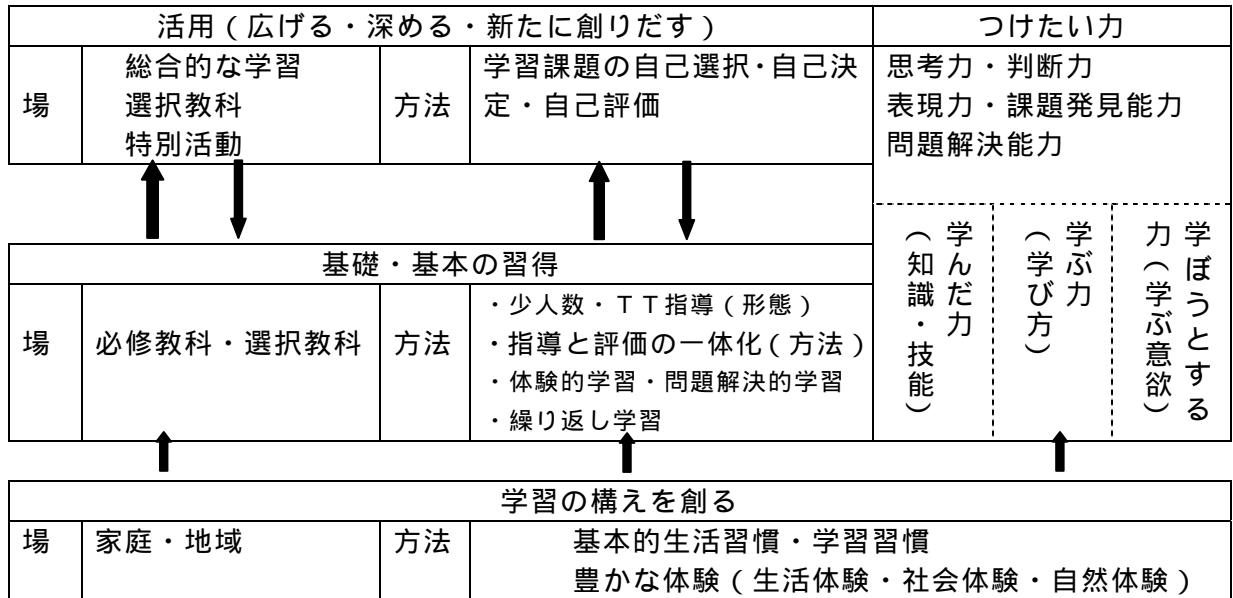


部会のメンバーと内容

部 会	メンバー	内 容
推進委員会 (フロンティアスクール推進部)	5教科の教科主任 (学年主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究（学力向上フロンティアスクール）の方針の決定 ・ 家庭との連携の推進
教科部会	各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準表の作成 ・ 評価を生かした指導のあり方の研究 ・ 個に応じた指導のあり方の研究
研究調査部会	数理英以外の教科担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの作成 ・ アンケート結果の集計・分析
きめ細かな指導部会	数理英の教科担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導・ＴＴ指導のあり方の研究
情報機器活用部会	校内情報リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考を支援する教材の研究 ・ 学習コンテンツのデータベース化

(4) 研究内容

各教科ごとの「確かな学力」について考察し，指導方法や指導内容について工夫し改善していく。とりわけ，「知識・技能」「学ぶ意欲」「学び方」を各教科共通してまず最初に身に付けさせたい基本的な力と考え，実態調査を基に指導方法や指導体制について研究する。



(5) 評価規準表の作成と評価を生かした指導の工夫・改善

きめ細かな指導に関する取り組みについて

ア 数学

1・2年生においては、2クラスを習熟度別の3グループに分け、さらに、下位グループについては、2名の教員がTTによる指導を行った。3年生は、通常はTT指導を行うが、単元によって1クラスを2グループの習熟度別に指導した。

各章が終わるごとに確認テストを実施し、習熟度別から課題別グループに再編成し直し補充授業を実施した。なお、補充授業終了後には評価テストを実施し、通過率を確認しながら授業を進めてきた。

イ 理科

各学年とも、TT指導が主であるが、まとめやドリル学習の時に、クラスを発展コースと基礎・基本コースの2コースに分けて指導してきた。また、本校生徒は「観察・実験の技能・表現力」が劣っていたので、実験・観察授業の事前・事後に実験器具等に関するパフォーマンステストを実施した。

ウ 英語

1年生は2週間のうち3時間を習熟度別の2グループで指導し、他の3時間をTTで指導するなど、TT指導と習熟度別少人数指導のそれぞれのよさを組み合わせた指導を展開してきた。

各教科等での取り組みについて

ア 評価規準表の作成と評価を生かした指導の工夫・改善について

評価を生かした指導の工夫

- ・ 個に応じた指導や評価の返し方を考えた評価規準表の作成。
- ・ 確認問題の作成と活用
- ・ 各教科における基礎・基本の定着のための問題作成と，単元終了後やテストの前での活用。
- ・ 確認問題が十分にできない生徒に対する補充学習の実施。

- ・ 確認プリントコーナーの設置と、いつでも利用可能な自主学習の場の設定。
- ・ 誰でも利用できる各教科ごとの確認問題のファイルの作成。

補充学習の場の設定

- ・ 授業中だけでは十分に評価基準に到達しない生徒や希望者を対象にした補充学習の実施（テスト発表中の放課後、夏休みの6日間、冬休み）。
- ・ 全教員が参加する国社数理英の指導。
- ・ 外部講師（ボランティア講師）の活用。

公開授業日の設定

- ・ 学期に1回ごとの公開授業の実施。
- ・ 授業や生徒の様子に関するアンケートの実施。

実態調査を生かした指導と家庭との連携について

ア 生活と学習の実態調査

学習の基盤である基本的な生活習慣（13項目）と学習習慣（17項目）に関するアンケート調査を学期ごとに実施。

（実施日）1学期（6月16日）、2学期（10月29日）、3学期（1月21日）

イ 重点指導項目の決定と実践

実態調査に基づく重点指導項目の決定と、全教員での共通実践。

（生活）「朝食を食べているか」

… 家庭への啓発を中心に取り組む。

（学習）「授業の初めに教科書やノートを開けているか」

… 全教科担任が取り組む。

（家庭学習）「家庭学習のとりかかりの時刻を決めているか」

… 学級活動として取り組む。

ウ 家庭との連携

授業参観や期末懇談会における、実態調査の結果をまとめた掲示物による保護者啓発。

団通信や学校通信および保健通信によるアンケート結果の周知と、家庭での生活や学習のあり方に関する啓発。

懇談会等における基本的な生活習慣定着のための協力依頼。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

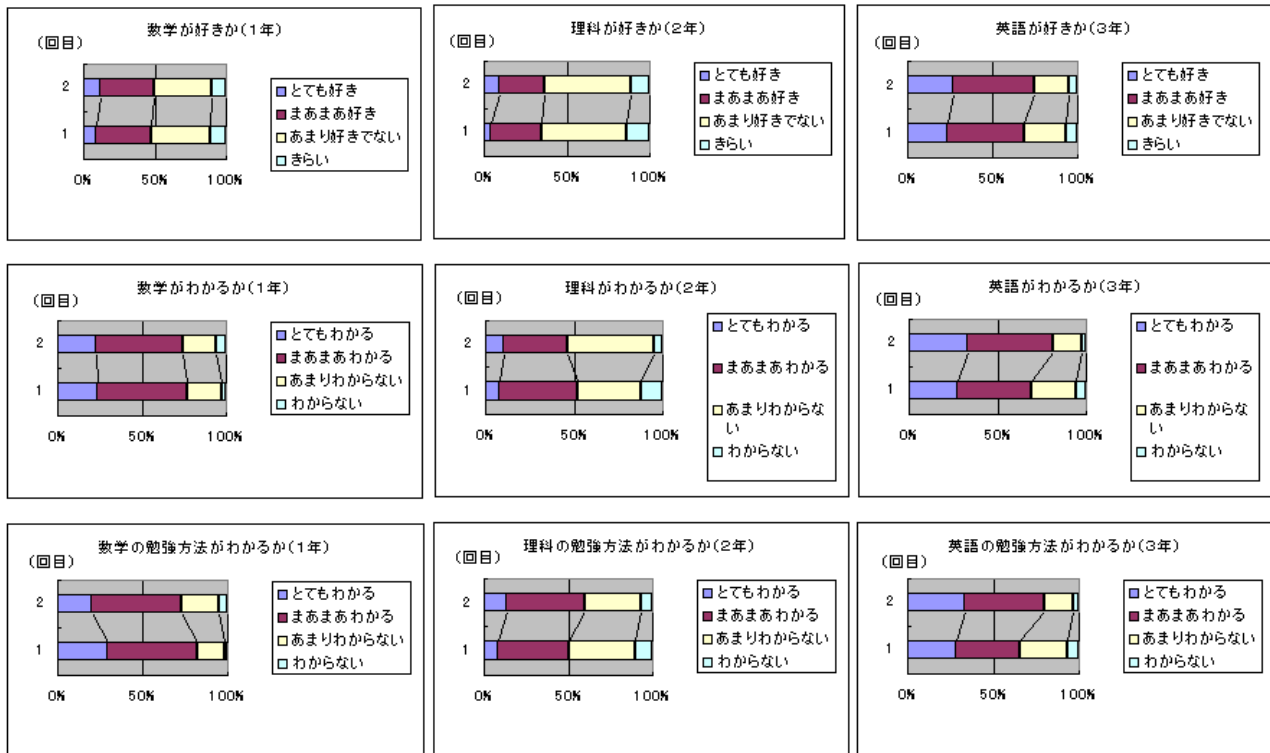
(1) 学習状況調査や単元末テスト等から分析した成果

- ・ 数学では各章が終わるごとに確認テストを実施し、習熟度別から課題別グループに再編成し直して補充授業を行い、その後評価テストを実施し通過率を調査している。たとえば1年2学期の単元である比例・反比例の通過率は、習熟度別の3グループとも向上している。
- ・ 理科では、実験・観察授業の事前・事後に実験器具等に関するパフォーマンステストを実施している。学習状況調査で県平均との差が大きかった2年生では、ドリル学習において解答に至ったプロセスを大切に指導を等質の少人数指導で行い、2学期定期テストでの正答率が科学的思考で+20%、知識・理解で+5.4%伸びている。
- ・ 英語では、毎時間の初めに「マシンガンインプット」と名付けた重要文型のくり返しによる表現練習を導入している。各課ごとに会話テストを実施し、少人数指導による複数教師で対応している。これらの取り組みにより、一学期と二学期の定期テストを比較すると、15%の生徒が観点別評価をCからBに向上させた。

(2) 教科アンケートからみられる成果

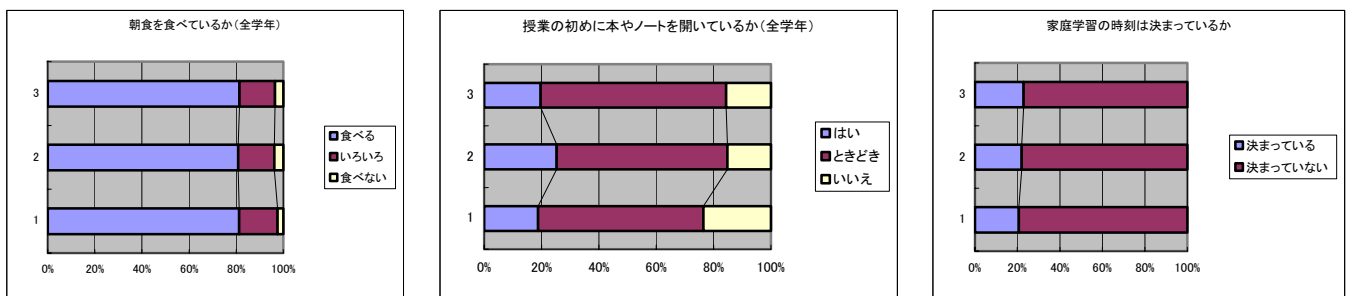
生徒の教科アンケートの1回目（9月実施）と2回目（2月実施）の数理英3教科の結果を比較した。「わかるか」「勉強方法がわかるか」の質問に対して、1年の数英では「わからない」と答えた生徒の割合が高くなったが、それ以外の学年や1

年理科では「わかる」と答えた生徒の割合が高くなった。また、「好きか」の質問に対しては、全学年とも「好き」と答える生徒が増えており、少人数指導やTT指導によるきめ細かな指導で「学ぶ意欲」が高まったと考えられる。



(3) 生活アンケートからみられる成果

生活・学習習慣の改善が少しずつみられるが、今後とも継続した指導が必要であることがわかった。また、教師から見ると改善されていると感じられることも、生徒自身の意識はまだまだ低いなど、教師の経験的な理解と生徒の意識にズレがあることも分かった。今後このようなズレを考慮した指導が大切である。



2 今後の課題

(1) 少人数指導の進め方

- ・ 知識・技能及び情意面に関する評価を毎日の授業で実施し、授業構成の検討と教員の指導力の向上をはかっていく。
- ・ 3教科とも単元終末に確認テストを行い、テスト結果によるコース別補充学習と発展学習を設定するが、その際使用する補充学習・発展学習教材の選定・開発に取り組む。

(2) 定着のための学習の実施

- ・ 朝学習の時間や帰りの会において、指導内容についての確認問題を行った。しかし、学年団や教科によってその取り組みに差がみられるので、教育課程の工夫など学校全体で取り組み体制を整えていくことが必要である。
- ・ 基礎・基本の定着をはかる確認問題がわからない生徒に対しては、補充学習を行うなど個別に支援できる機会を継続的に確保していかなければならない。

- (3) 学び方の指導の推進
 - ・ それぞれの教科の特質を踏まえた学習の仕方について指導し、学校や家庭における学習効果を向上させる。
- (4) 個に応じた補充学習の場の設定
 - ・ 夏休みや冬休みに補充学習を行うことで、努力を要する生徒の学習意欲が少しずつ高まってきた。しかし、基礎的・基本的事項の理解については、その時はわかっているが、時間が経つと、元の状態に戻ってしまい効果が持続しにくい。補充学習等を行う時間の継続的な確保が不可欠である。
 - ・ 日常の放課後等は、中学校の教師だけでは個に応じた補充学習を十分にできにくいので、外部講師等の支援が得られる体制作りを進めていきたい。
- (5) 実態調査と家庭との協力・連携
 - ・ 共通の取り組み事項について指導方法を工夫・改善し、全教員の共通理解・共通実践に努める。また、一つ一つ評価しながら生徒の改善の意欲を高めていく。
 - ・ 基本的な生活習慣や学習習慣の改善は、学校の指導だけでは十分ではない。家庭への効果的な啓発の仕方や場の設定について工夫・改善していきたい。
- (6) 基本的な生活習慣と学習成果の相関に関する調査と分析
 - ・ 基本的な生活習慣と学習成果の相関に関する調査・分析を継続的に行い、生徒や保護者に対して説得力ある啓発活動を推進し、望ましい習慣形成を一層推進する。

学力把握のための学校としての取り組み

- 1 実態調査による把握
 - (1) 生徒（生活アンケート，教科アンケート，学校教育アンケート）
 - ・ 少人数指導による学力向上の評価
 - ・ アンケート調査による生徒の意識の把握
 - ・ グループ別の学習状況の把握
 - ・ 評価規準に基づく事後テストの作成と追跡・比較調査による評価
 - ・ 教科ごとの生徒の意識アンケート（共通のアンケート，教科独自のアンケート）
 - ・ 各教科で「好きか」「わかるか」「学習方法がわかるか」について調査している。
 - ・ 生活・学習習慣の状況についてのアンケート
 - (2) 教師（指導と評価に関するアンケート，学校教育アンケート）
 - (3) 保護者（学校教育アンケート）
- 2 絶対評価による把握（全教科）
 - ・ 評価規準に照らし合わせた単元末テスト（確認問題）や定期テスト
- 3 香川県が実施する学習状況調査の活用（数・理・英）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 公開授業の実施
- 2 ホームページでの、学力向上フロンティアスクールの研究概要の発信。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	